様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大阪樟蔭女子大学
設置者名	学校法人樟蔭学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
学芸学部	国文学科	夜・通信	12		4	16	13	
	国際英語学科	夜・通信			6	18	13	
	心理学科	夜・通信			5	17	13	
	ライフプランニング学科	夜・通信			6	18	13	
	化粧品ファッション学科 ファッション学コース	夜・通信			4	16	13	
	化粧品ファッション学科 化粧品学コース	夜・通信			4	16	13	
	化粧品ファッション学科 美容コース	夜・通信			6	18	13	
児童教育学部	児童教育学科	夜・通信			8	20	13	
健康栄養学部	健康栄養学科 管理栄養士専攻	夜・通信			29	41	13	
	健康栄養学科 食物栄養専攻	夜・通信			11	23	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>本学トップページ (https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/) に「シラバス」のパナーを設置し、一覧表へのリンクを付している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実務経験のある教員等による授業科目の一覧 <p>https://www.osaka-shoin.ac.jp/files/8217/1375/4686/jitumu20240422.pdf</p> <p>また、Web シラバスからは、検索窓「キーワード」に『★実務経験』を入力して検索すると、該当科目のシラバスが開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Web シラバス

<https://unipa.osaka-shoin.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪樟蔭女子大学
設置者名	学校法人樟蔭学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.osaka-shoin.ac.jp/about/directors/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(現職) 弁護士	2021.4.1- 2025.3.31	裁判所、及び弁護士の学識経験者として、主にコンプライアンス
非常勤	(前職) 大阪私学経営者協議会 事務局長	2021.4.1- 2025.3.31	地方行政の学識経験者として、主に地域行政との連携
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪樟蔭女子大学
設置者名	学校法人樟蔭学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

(1) 「シラバス作成ガイドライン」の策定及び科目担当者への周知

本学では、以下に示す「シラバス作成ガイドライン」を策定し、「シラバス作成マニュアル」と併せて次年度授業科目担当者に配付し、その内容を周知している。

(2) シラバスの作成と公表

前年度の10月より授業科目担当予定者にシラバス作成の依頼を行なう。

1月中旬にシラバス提出を締め切ったのち、「シラバス第三者点検委員会」によるシラバスの点検を行ない、提出されたシラバスがガイドラインに沿ったものであるか、その内容がカリキュラムマップで示された事項(DP、到達目標)を実現するものであるかを確認、修正要求を行なう。

委員会の点検を通過した、あるいは修正を実施したシラバスについて、3月末を目途に本学ホームページ上に「WEBシラバス」として整理し、本学学生のみならず広く閲覧に供することができるものとして公表している。

大阪樟蔭女子大学シラバス作成ガイドライン

1. シラバス作成の基本方針

(1) 以下の目的のためにシラバスを作成する。

- 授業選択ガイドとして、学生が自分の興味、関心、学修計画に沿った科目を選択できる
- あらかじめ、授業内容、方法、評価について教員、学生が相互に確認できる
- 教員、学生が学修効果を高める資料として活用する
- 教員が授業設計の資料として活用する
- 教員間での情報共有を可能とし、授業改善・カリキュラム改善のサイクルに活用する
- 認証評価を始め、対外的に教育の質保証を証明する際の資料とする

(2) 上記の目的を達成するため、シラバス作成にあたっては以下の点を重視する。

- 学生の視点に立ち、分かりやすい記述をする
- 学生が学修計画を立てやすいよう具体的な記述をする
- カリキュラム全体の中での位置づけ、到達目標の実現を意識する
- 学修成果の評価に関する基準・方法を明確に示す

2. シラバスの記載項目

- ①授業科目の基本情報(科目名、単位数、科目番号、開期、講時、配当、担当教員名)
- ②授業の到達目標
- ③授業の概要(教員の実務経験と授業への活用)
- ④準備学習
- ⑤テキスト
- ⑥参考書
- ⑦学生に対する評価
- ⑧課題に対するフィードバックの方法
- ⑨講義計画(回数、授業計画、予習、復習)
- ⑩アクティブ・ラーニングの授業方法
- ⑪ディプロマ・ポリシーとの関係
- ⑫授業科目の位置づけ・レベルを表す記号
- ⑬授業方法について
- ⑭学生への要望
- ⑮担当者への連絡方法

3. 各項目の記載について

(以下略)

<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>1.以下を大学ホームページに掲出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大阪樟蔭女子大学シラバス作成ガイドライン https://www.osaka-shoin.ac.jp/files/1217/0141/9240/syllabus_guideline2024.pdf ・Web シラバス https://unipa.osaka-shoin.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006 <p>2.『履修ガイド』（刊行物）を学生に配付</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

授業科目の学修成果の評価については、評価の方法、単位認定の方法、成績の評価基準等を履修規程に規定し、それを大学ホームページに掲載し公表している。

成績評価・単位認定について（履修規程第 21 条、22 条、24 条より）

(単位の認定)

第 2 1 条 履修登録科目の単位認定は、試験等担当教員が講義要項（シラバス）に示した方法により総合的に行なう。

2 履修登録科目の単位認定は授業料等納付金を納付した者について行ない、未納の者については単位認定は保留される。

(試験の区分)

第 2 2 条 試験は本試験、追試験に分ける。試験は原則として筆答によるがレポート、口述等をもってこれに代えることがある。

(1) 本試験

- a. 原則として春期および秋期の試験のために設けた期間内に授業科目担当者が行う。
- b. 試験を受けるためには、原則として当該科目の授業時間数の 3 分の 2 以上出席することを要する。ただし、受験資格の有無についての最終決定は、担当教員の判断によるものとする。

(2) 追試験

- a. やむを得ぬ事情で本試験を欠席し、証拠を添えた理由書で願い出た者につき、担当教員の認めた者に限り、当該科目を登録した年度内に行う。
 - b. ただし、教務委員会の認めた者については、次年度春期終了時までの間は追試験を行うことができる。
- 2 追試験を受けようとする者は、ラーニングサポートで所定の受験手続きをしなければならない。
- 3 一度合格した授業科目の再受験はできない。
- 4 履修登録科目の単位認定について、試験以外の方法によって行なう際の認定要件等についても本条に準ずる。

(成績の評価基準ならびに成績評価の指標)

第 2 4 条 成績の評価は次の基準による。

	素点	グレード	G P	成績評価基準	備考
合格	100 ～90	S	4	到達目標を超えて優れた成績を修めている	
	89 ～80	A	3	到達目標を十分に達成している	到達目標はこの水準を満たすものとして設定している
	79 ～70	B	2	到達目標を概ね達成している	
	69 ～60	C	1	到達目標を最低限達成している	単位を与える最低基準を満たしていることを示す
不合格	59 ～0	D	0	到達目標を達成していない	
合格	合格	P	—	到達目標を達成している	
不合格	不合格	F	—	到達目標を達成していない	
合格	認定	Q	—		他大学等での修得単位の認定、協定留学に関わる単位の認定

成績の評価には、上記の他に下記の評価が含まれる。

素点	グレード	G P
評価無	N	0
履修中止	W	—

2. 合格したものには所定の単位を与える。
 3. 成績評価に係る指標としては、GPA (Grade Point Average)を用いることとし、これを学科成績とともに通知する。

GPA (履修科目の単位数×評価ポイント(GP)) の総和を履修科目の総単位数で割った値。

以下の内容をホームページに掲出

・ 学生生活／成績評価・卒業要件

『成績評価・単位認定について』

<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/campuslife/grade/>

・ Web シラバス

<https://unipa.osaka-shoin.ac.jp/uprx/up/pk/pky001/Pky00101.xhtml?guestlogin=Kmh006>

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績の評価の基準について、また成績評価の客観的な評価の指標については、履修規程に規定し、学生及び授業科目担当者に周知するとともに、大学ホームページにその事項を掲載し公表している。

成績の評価基準ならびに成績評価の指標 (履修規程第 24 条より)

(成績の評価基準ならびに成績評価の指標)

第 24 条 成績の評価は次の基準による。

	素点	グレード	GP	成績評価基準	備考
合格	100 ～90	S	4	到達目標を超えて優れた成績を修めている	
	89 ～80	A	3	到達目標を十分に達成している	到達目標はこの水準を満たすものとして設定している
	79 ～70	B	2	到達目標を概ね達成している	
	69 ～60	C	1	到達目標を最低限達成している	単位を与える最低基準を満たしていることを示す
不合格	59 ～0	D	0	到達目標を達成していない	
合格	合格	P	—	到達目標を達成している	
不合格	不合格	F	—	到達目標を達成していない	
合格	認定	Q	—		他大学等での修得単位の認定、協定留学に関わる単位の認定

成績の評価には、上記の他に下記の評価が含まれる。

素点	グレード	GP
評価無	N	0
履修中止	W	—

2. 合格したものには所定の単位を与える。
 3. 成績評価に係る指標としては、GPA (Grade Point Average)を用いることとし、これを学科成績とともに通知する。

GPA (履修科目の単位数×評価ポイント(GP)) の総和を履修科目の総単位数で割った値。

<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>以下の内容を本学ホームページに掲出 ・学生生活／成績評価・卒業要件 『成績評価・単位認定について』 https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/campuslife/grade/</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業の認定に関する方針については「ディプロマ・ポリシー」として、学部・学科毎に策定し本学ホームページに掲出し公表している。また、その内容について、毎年度見直しを行なっている。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>以下の内容を本学ホームページに掲出 ・大学案内／教育理念／指針／ディプロマ・ポリシー 『ディプロマ・ポリシー』 https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/diplomapolicy/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大阪樟蔭女子大学
設置者名	学校法人樟蔭学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.osaka-shoin.ac.jp/disclosure/finance/
収支計算書又は損益計算書	https://www.osaka-shoin.ac.jp/disclosure/finance/
財産目録	https://www.osaka-shoin.ac.jp/disclosure/finance/
事業報告書	https://www.osaka-shoin.ac.jp/disclosure/finance/
監事による監査報告(書)	https://www.osaka-shoin.ac.jp/disclosure/finance/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:事業計画書)	対象年度:令和6年度)
公表方法: https://www.osaka-shoin.ac.jp/disclosure/finance/	
中長期計画(名称:樟蔭学園第Ⅲ期中長期計画)	対象年度:令和2年度-令和6年度)
公表方法: https://www.osaka-shoin.ac.jp/philosophy/future/	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/evaluation/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/evaluation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 学芸学部国文学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/purpose/) (概要) 日本の言語・文学に関する幅広い知識を教授することにより、日本文化に対する造詣を深め、豊かな情操を涵養し、言語運用能力を養成する。日本文化を継承・発展させ発信する能力を以って、異文化間の交流を視野に入れつつ、社会で活躍できる人材の育成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/diplomapolicy/) (概要) 国文学科は、本学の所定の課程を修め、次のような能力を身につけた学生の卒業を認定し、学位を授与する。 1. 自ら必要な情報を収集し、多角的な視点から分析し、適切に活用することができる。(情報リテラシー) 2. 事実やデータにもとづき、客観的、論理的に思考することができる。(論理的思考力) 3. さまざまな場面において、自らの意見を持ち、責任ある行動をとることができる。(自己管理能力) 4. 状況を的確に把握し、問題を発見し、その解決のために継続的に取り組むことができる。(問題解決力) 5. 他者の意見を聴き、相手への理解をふまえて適切な表現によって自分の意見を伝え、協力して活動できる。(チームワーク) 6. 社会の中で多様な文化を背景に持つ人々と共生する意思を持ち、ライフイベントや社会的課題に主体的・自律的に対処することができる。(主体性・自律性) 7. 学芸学部の幅広い学びにより培われた教養とともに、自らが選択した領域における高度な専門知識・技能を習得したことによる実践的スキルを持ち、自らの言葉で積極的に発信し、社会に貢献できる。(専門的能力) 8. 日本語の多様な表現方法を習得し、かつ豊かな自己表現ができる。(自己表現力) 9. 日本語・日本文化を追究することにより培われた教養によって、他人を正しく理解することができる。(人間理解力) 10. 大阪・上方のことば文化を含め、日本語・日本文化について学んだことを自らの言葉で積極的に発信することで、社会に貢献できる。(自己発信力)
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/curriculumpolicy/) (概要) 国文学科は、ディプロマポリシーに掲げる知識・技能等を修得させるために、学士課程基幹教育科目、学科専攻科目等を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に設置する。なお、カリキュラムの体系についてはカリキュラムマップにおいて明示する。 1) 教育内容 1. 4年間をとおした学修の基礎となる学士課程基幹教育科目に関して、初年次教育において、本学のミッションに基づき「樟蔭コア科目」「言語情報科目」「主題別科目」を履修し、論理的思考力・コミュニケーション力・情報収集力等の基本となる学士力を獲得する。 2. 『樟蔭の窓』を初年次に履修し、大阪樟蔭女子大学で学ぶ意味を考え、また将来社会で自律した女性として生きるために必要な考え方を身につける。 3. 学士課程基幹教育科目主題別科目群に関しては、初年次から自らの関心に応じていくつ

かの主題領域、科目を選択し、問題を発見する力や解決に向けて継続的に取り組む力、他者への理解をふまえて協力して活動できる力を獲得する。また、学修の成果を就業につなげ、実社会に役立てるために、1年次からキャリア系科目を履修することができる。

4. 各学科は、ディプロマポリシーに掲げる専門的な知識・技能等を修得させるために、専攻科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に設置するとともに、それらを時間割として効果的に配置する。

5. 国文学科で学ぶことの意義を理解し、自分が学びたい勉強内容を再認識するために、学科専攻基礎科目を初年次に必修科目として履修する。

6. 2年次からは、「国語・国文学」、「書道」、「創作表現」の3コースのうちの一つを選択し、コースのカリキュラムを中心に、日本語・日本文化に関する知識や技術を習得する。

7. 2・3年次においては、基幹科目を履修することにより、自分が選択したコースの内容を習得し、学問的なアプローチの方法について学ぶ。

8. 3・4年次においては、発展科目の履修により、各人の問題意識を持ってこの分野における問題を探究し、日本語・日本文化を自ら表現することを学ぶ。

9. 卒業論文・卒業制作においては、日本語・日本文化の担い手としての自覚を持ち、研究成果や作品を積極的に社会に発信する。

10. 大阪・上方のことは文化を理解するため、大阪・上方関連科目を1～3年次に設置する。

11. 読書の習慣を身につけ、田辺聖子文学館や図書館を積極的に利用するために、読書に親しむための科目を初年次に配置する。

12. 中学校・高校の国語教員、高校の書道教員を目指す学生のために教職課程に必要な科目を置く。

2) 教育方法

1. 特に、他者と協力して問題解決を図る能力を高めるために、学科専攻科目、学士課程基幹教育科目キャリア系科目等においてアクティブラーニング、PBL、グループワークを教育方法に取り入れ、授業を行う。

2. 学科専攻科目、学士課程基幹教育科目キャリア系科目等において、学外でのフィールドワークやプロジェクト、インターンシップへの参加、体験による教育方法を取り入れるとともに、その実施時期・課題について講義科目等との整合や連携に配慮して計画的に実施する。

3. 講義・演習科目を中心に、ICT機器とWebツールを活用したオンライン形式による授業を行う。

4. Webツールなどを活用し、学修に関する目標・記録・評価など、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理する。

5. 専攻科目は、授業の目的により講義、講読、演習、実習の4種類の形態の授業をおこなう。「講義」においては基礎的な知識について聞き、理解するための力を養う。「講読」においては、テキスト内容を深く読み、作品を鑑賞する力を養う。「演習」においては少人数で発表を中心とした展開で学生の主体性を引き出す。実習は少人数で個別指導をおこなうことで技術を高めることが目的である。

6. 学修および学生生活に関する目標・結果・評価を記録するため、樟蔭 UNIPA の学生プロフィール登録等を活用し、学習成果と学生生活の状況を学期ごとに記入する。定期的あるいは臨時的におこなうアドバイザーとの面談時にポートフォリオの内容を共有し、適切なアドバイスを受けることにより、4年間の成長を実感することができる。学科教員間においても情報を共有する。

3) 教育評価

1. ディプロマポリシーにある、情報リテラシー・論理的思考力・自己管理力・問題解決力・チームワーク・主体性・自立性などの汎用的能力を可視化することによって、学生が自己の学修成果を評価するとともに、教員からの評価を受け改善を行う。

2. 学科専攻科目に関わる4年間の総合的な学修成果の評価は「卒業論文」によって行う。

3. 4年間の総合的な学習成果の評価をおこなうために、「卒業論文・卒業制作」を必修科目として課し、提出後に学科の卒論発表会において全員が口頭で発表する。評価にあたっては、複数教員（主査・副査）により評価、卒論判定会議を経て最終評価を決定する。

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/admissionpolicy/)</p>
<p>(概要) 国文学科は、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーに定める教育を受けるための条件として、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校の教育課程を幅広く修得している。 2. 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合(現代文)」、「英語」を通じて、コミュニケーションの基礎となる、聞く・話す・読む・書く力を身につけている。 3. 身近な生活や社会の問題について、知識や情報をもとにして筋道を立てて考え、それについて説明することができる。 4. 学校での学習や課外活動・ボランティア活動等について伝えたい経験があり、それらをもとにさらに深い知識を学び、成長したいという意欲をもっている。 5. 入学前教育として求められる、必要な基礎的な知識を身につけるための学習課題に最後まで取り組むことができる。 6. 日本語・日本文化に深く興味、関心があり、ふだんから読書に慣れ親しんでいる。 7. 日本語・日本文化に関する知識について学び、教養として身につけ、学んだことを積極的に発信することで、社会の役に立ちたいという意志がある。 8. 漢字能力検定などの各種ことばに関する検定を受験する、あるいは、田辺聖子ジュニア文学賞などの文学賞に応募するなど、日本語に関する知識を学び、表現力を磨こうとする意欲がある。

<p>学部等名 学芸学部国際英語学科</p>
<p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/purpose/)</p>
<p>(概要) 国際語としての英語の役割を認識し、国際理解に貢献する高度で実践的な英語運用力の育成を図るとともに、英米文化圏に限定することなく、多文化社会に適応できる、広い視野と深い教養をもった人材を育成することを目的とする。特に、自国の言語・文化を国際的な視点から客観的に捉えることができる分析力と、それを世界に向けて発信する豊かな表現力・実践力を身につけた国際人を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/diplomapolicy/)</p>
<p>(概要) 国際英語学科は、本学の所定の課程を修め、次のような能力を身につけた学生の卒業を認定し、学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら必要な情報を収集し、多角的な視点から分析し、適切に活用することができる。(情報リテラシー) 2. 事実やデータにもとづき、客観的、論理的に思考することができる。(論理的思考力) 3. さまざまな場面において、自らの意見を持ち、責任ある行動をとることができる。(自己管理力) 4. 状況を的確に把握し、問題を発見し、その解決のために継続的に取り組むことができる。(問題解決力) 5. 他者の意見を聴き、相手への理解をふまえて適切な表現によって自分の意見を伝え、協力して活動できる。(チームワーク) 6. 社会の中で多様な文化を背景に持つ人々と共生する意思を持ち、ライブイベントや社会的課題に主体的・自律的に対処することができる。(主体性・自律性) 7. 学芸学部の幅広い学びにより培われた教養とともに、自らが選択した領域における高度な専門知識・技能を習得したことによる実践的スキルを持ち、自らの言葉で積極的に発信し、社会に貢献できる。(専門的能力) 8. CEFR(ヨーロッパ言語共通参照枠)のB1レベル(自立した言語使用者)に相当する英語運用能力を持っている。(英語運用能力)

9. 多文化社会において人々の多様性を理解・尊重して生きていくための専門知識 コミュニケーション力を持っている。（専門的能力）

10. 英語教育指導者や日本語教師などの言語教育を行う知識や方法を身に付けている。（言語教育力）

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/curriculumpolicy/>）

（概要）

国際英語学科は、ディプロマポリシーに掲げる知識・技能等を修得させるために、学士課程基幹教育科目、学科専攻科目等を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に設置する。なお、カリキュラムの体系についてはカリキュラムマップにおいて明示する。

1) 教育内容

1. 4年間をとおした学修の基礎となる学士課程基幹教育科目に関して、初年次教育において、本学のミッションに基づき「樟蔭コア科目」「言語情報科目」「主題別科目」を履修し、論理的思考力・コミュニケーション力・情報収集力等の基本となる学士力を獲得する。

2. 『樟蔭の窓』を初年次に履修し、大阪樟蔭女子大学で学ぶ意味を考え、また将来社会で自律した女性として生きるために必要な考え方を身につける。

3. 学士課程基幹教育科目主題別科目群に関しては、初年次から自らの関心に応じていくつかの主題領域、科目を選択し、問題を発見する力や解決に向けて継続的に取り組む力、他者への理解をふまえて協力して活動できる力を獲得する。また、学修の成果を就業につなげ、実社会に役立てるために、1年次からキャリア系科目を履修することができる。

4. 各学科は、ディプロマポリシーに掲げる専門的な知識・技能等を修得させるために、専攻科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に設置するとともに、それらを時間割として効果的に配置する。

5. 1、2年次は、実践的な英語運用能力を身につけるためにCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）に準拠した学科独自の基礎スキル科目群を履修し、聞く・話す（やり取り、発表）・読む・書く力の4技能の向上を目指す。

6. TOEIC、TOEFL、英検（STEP）など各種検定試験に対応できる力を身につけるために『English Workshop A～D』を配置し、客観的な視点から自らの英語力を把握しその向上に努める。

7. 多文化社会への対応として、英語圏に加え、韓国など東アジアの国々についての基礎的な知識やコ

ミュニケーション力も身につける。

8. 国際英語学科で学ぶことの意義を理解する学科基礎教養科目を初年次から2年次にかけて、3、4年次の学びを意識しながら履修する。

9. 2年次秋期に協定校への海外中期留学に参加することで、身につけた英語力を実践し3、4年次での学修につなげる。

10. 3、4年次は、多文化社会に適応できる広い視野と豊かな教養をもった人材を育成するため、(a)「グローバルコミュニケーションコース」、(b)「言語教育実践コース」の2コースからいずれかを選択する。英語運用能力については、各コースに特化したcontent-basedの科目群で履修する。また(a)では、英語力を活かして幅広く社会で活躍するために必要な科目群を配置し資格取得をめざす。(b)では、言語教育の専門家になるために、「中学校・高等学校教諭1種（英語）」取得に必要な科目をはじめ、英語指導者になるのに必要な科目群の配置、あるいは、外国人に日本語を教える「日本語教員資格」に必要な科目群を配置し資格取得をめざす。

11. 4年次においては、コース別の学びに加えて、4年間の学習の集大成として演習を中心に卒業論文を執筆する。本学科で身につけた知識・論理的思考力・分析力を、個々の学生の興味関心に応じて深め、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけ、大学での学びを完成させる。

2) 教育方法

1. 特に、他者と協力して問題解決を図る能力を高めるために、学科専攻科目、学士課程基幹教育科目キャリア系科目等においてアクティブラーニング、PBL、グループワークを教育方法に取り入れ、授業を行う。

<p>2. 学科専攻科目、学士課程基幹教育科目キャリア系科目等において、学外でのフィールドワークやプロジェクト、インターンシップへの参加、体験による教育方法を取り入れるとともに、その実施時期・課題について講義科目等との整合や連携に配慮して計画的に実施する。</p> <p>3. 講義・演習科目を中心に、ICT 機器と Web ツールを活用したオンライン形式による授業を行う。</p> <p>4. Web ツールなどを活用し、学修に関する目標・記録・評価など、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理する。</p> <p>5. 英語運用能力を高めるために、「基礎スキル科目群」においては、ネイティブ・スピーカー教員を中心に、“Learning by Doing”の方針に基づき、レベル別少人数クラスで、ペアワーク、グループワークなどアクティブラーニングを積極的に教育方法に取り入れ、授業を行う。</p> <p>6. 学科専攻科目においては、座学と共に学外でのフィールドワーク、実習・体験による教育方法を取り入れながら、科目間の実施時期や講義内容に関連を持たせることに配慮して、計画的・段階的に実施する。</p> <p>7. 樟蔭学園 樟蔭国際学習センターにおいて、その施設を利用した授業課題をこなすとともに、課外での英語学習を学生の能力・目標に応じて個別にサポートする。</p> <p>3) 教育評価</p> <p>1. ディプロマポリシーにある、情報リテラシー・論理的思考力・自己管理力・問題解決力・チームワーク・主体性・自立性などの汎用的能力を可視化することによって、学生が自己の学修成果を評価するとともに、教員からの評価を受け改善を行う。</p> <p>2. 学科専攻科目に関わる4年間の総合的な学修成果の評価は「卒業論文」によって行う。</p> <p>3. 4年間の総合的な学習成果の評価を行うために、「卒業論文・卒業制作」を必修科目として課し、複数教員により評価する。</p>
--

入学者の受入れに関する方針
(公表方法：<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/admissionpolicy/>)

<p>(概要)</p> <p>国際英語学科は、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーに定める教育を受けるための条件として、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求める。</p> <p>1. 高等学校の教育課程を幅広く修得している。</p> <p>2. 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合(現代文)」、「英語」を通じて、コミュニケーションの基礎となる、聞く・話す・読む・書く力を身につけている。</p> <p>3. 身近な生活や社会の問題について、知識や情報をもとにして筋道を立てて考え、それについて説明することができる。</p> <p>4. 学校での学習や課外活動・ボランティア活動等について伝えたい経験があり、それらをもとにさらに深い知識を学び、成長したいという意欲をもっている。</p> <p>5. 入学前教育として求められる、必要な基礎的な知識を身につけるための学習課題に最後まで取り組むことができる。</p> <p>6. 英語に強い関心を持ち、大学入学後も自らの英語運用能力を向上させたいという意欲をもっている。</p> <p>7. 多角的な視点をもって異文化を理解し受け入れようとする意欲をもっている、あるいはその実践経験がある。</p> <p>8. 国内、海外を問わず、将来自分の語学力を活かした職業に就きたいと考えている。</p> <p>9. 自らを取りまく問題について、知識や情報をもとに論理的に説明することができる。</p>

<p>学部等名 学芸学部心理学科</p> <p>教育研究上の目的 (公表方法：https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/purpose/)</p> <p>(概要)</p> <p>人の行動とそのもとにある心の働きに関する専門知識と技能を身につけ、人と社会に関わる総合的な能力を備えた人材の育成を目的とする。</p> <p>卒業又は修了の認定に関する方針</p>
--

(公表方法：<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/diplomapolicy/>)

(概要)

心理学科は、本学の所定の課程を修め、次のような能力を身につけた学生の卒業を認定し、学位を授与する。

1. 自ら必要な情報を収集し、多角的な視点から分析し、適切に活用することができる。(情報リテラシー)
2. 事実やデータにもとづき、客観的、論理的に思考することができる。(論理的思考力)
3. さまざまな場面において、自らの意見を持ち、責任ある行動をとることができる。(自己管理能力)
4. 状況を的確に把握し、問題を発見し、その解決のために継続的に取り組むことができる。(問題解決力)
5. 他者の意見を聴き、相手への理解をふまえて適切な表現によって自分の意見を伝え、協力して活動できる。(チームワーク)
6. 社会の中で多様な文化を背景に持つ人々と共生する意思を持ち、ライフイベントや社会的課題に主体的・自律的に対処することができる。(主体性・自律性)
7. 学芸学部幅広い学びにより培われた教養とともに、自らが選択した領域における高度な専門知識・技能を習得したことによる実践的スキルを持ち、自らの言葉で積極的に発信し、社会に貢献できる。(専門的能力)
8. 人間の行動の仕組みを客観的に理解できる。(心理学的理解)
9. 心理学の知識と技能を活かし他者との適切な関わりや援助を行う力を身につけている。(心理学的援助)
10. 臨床に関わる業務、教育および福祉に関わる業務、および企業を含めた組織での業務遂行に心理学の知見や方法論を活用する能力を身につけている。(心理学的実践力)

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/curriculumpolicy/>)

(概要)

1) 教育内容

1. 4年間をとおした学修の基礎となる学士課程基幹教育科目に関して、初年次教育において、本学のミッションに基づき「樟蔭コア科目」「言語情報科目」「主題別科目」を履修し、論理的思考力・コミュニケーション力・情報収集力等の基本となる学士力を獲得する。
2. 『樟蔭の窓』を初年次に履修し、大阪樟蔭女子大学で学ぶ意味を考え、また将来社会で自律した女性として生きるために必要な考え方を身につける。
3. 学士課程基幹教育科目主題別科目群に関しては、初年次から自らの関心に応じていくつかの主題領域、科目を選択し、問題を発見する力や解決に向けて継続的に取り組む力、他者への理解をふまえて協力して活動できる力を獲得する。また、学修の成果を就業につなげ、実社会に役立てるために、1年次からキャリア系科目を履修することができる。
4. 各学科は、ディプロマポリシーに掲げる専門的な知識・技能等を修得させるために、専攻科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に設置するとともに、それらを時間割として効果的に配置する。
5. 初年次においては、「人間の客観的・中立的理解」をめざす心理学の学問的基礎とそのための方法論的基礎を学ぶ科目を履修する。さらに心理学各分野の個別的内容を学ぶ科目を履修し、各領域への関心を高める。また心理学における方法論的基礎としての記述統計や、心理学実験に基づくデータ収集およびそれを分析した論文(レポート)作成、心理面接について実習を通して体験的に学ぶ。
6. 2年次は、学科基礎科目を中核として、心理学と精神医学などの関連領域について体系的かつ詳細に学ぶための講義科目を履修する。さらに実習科目として、心理検査、調査、実験等を体験的に修得する科目を履修する。
7. 3年次からは、「総合心理コース」と「臨床心理コース」のいずれかを選択する。いずれのコースにおいても、心理学の知識・方法論・技能を活用・応用して社会に貢献する実践力の修得を可能とする発展科目を履修する。「総合心理コース」では特に人の心の成り立ちや働き、発達などに関する最先端の知識と情報分析の高度な技能、「臨床心理コース」では特に対

人関係、心の悩みと援助などに関する最先端の知識とコミュニケーションや心理臨床の高度な技能を修得する。

8.4年次では、以上の履修内容を統合した学びとして、心理学の学問的立場からの問題設定、問題解決およびプレゼンテーションの能力を養成するため卒業論文を作成する。

9.公認心理師、精神保健福祉士、スクールソーシャルワーカー等の資格取得を希望する者は、そのために必要な科目を初年次より履修し、その取得をめざす。

2)教育方法

1.特に、他者と協力して問題解決を図る能力を高めるために、学科専攻科目、学士課程基幹教育科目キャリア系科目等においてアクティブラーニング、PBL、グループワークを教育方法に取り入れ、授業を行う。

2.学科専攻科目、学士課程基幹教育科目キャリア系科目等において、学外でのフィールドワークやプロジェクト、インターンシップへの参加、体験による教育方法を取り入れるとともに、その実施時期・課題について講義科目等との整合や連携に配慮して計画的に実施する。

3.講義・演習科目を中心に、ICT機器とWebツールを活用したオンライン形式による授業を行う。

4.Webツールなどを活用し、学修に関する目標・記録・評価など、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理する。

5.社会で心理学を活用する具体的なイメージを持つことができるよう、学科専攻科目、学士課程基幹教育科目キャリア系科目において、心理学を学んで活躍する各分野の専門家による講義やインターンシップ、公認心理師・精神保健福祉士・スクールソーシャルワーカーの資格取得のための学外実習等を実施する。

3)教育評価

1.ディプロマポリシーにある、情報リテラシー・論理的思考力・自己管理力・問題解決力・チームワーク・主体性・自立性などの汎用的能力を可視化することによって、学生が自己の学修成果を評価するとともに、教員からの評価を受け改善を行う。

2.学科専攻科目に関わる4年間の総合的な学修成果の評価は「卒業論文」によって行う。

3.社会の様々な領域で心理学の知識と技能を活かして活躍できる力の修得に関わる総合的な学習成果の評価は、「卒業論文」および「卒業論文発表会」でのプレゼンテーションに基づいて実施する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/admissionpolicy/>)

(概要)

心理学科は、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーに定める教育を受けるための条件として、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求める。

1.高等学校の教育課程を幅広く修得している。

2.高等学校までの履修内容のうち、「国語総合(現代文)」、「英語」を通じて、コミュニケーションの基礎となる、聞く・話す・読む・書く力を身につけている。

3.身近な生活や社会の問題について、知識や情報をもとにして筋道を立てて考え、それについて説明することができる。

4.学校での学習や課外活動・ボランティア活動等について伝えたい経験があり、それらをもとにさらに深い知識を学び、成長したいという意欲をもっている。

5.入学前教育として求められる、必要な基礎的な知識を身につけるための学習課題に最後まで取り組むことができる。

6.人間を科学的・客観的に見つめる心理学の基礎を身につけ、人間の行動について理解したいと考えている。

7.個人や集団の行動の背後にある法則性に注目し、これを広く社会や企業で活かしたいと考えている。

8.心理学の知識と技能を用いて、自分自身や対人関係の問題に対処する力を身につけたいと考えている。

9.心の問題や心のケアに関心があり、カウンセリング技術を身につけ、人の役に立ちたいと考えている。

学部等名 学芸学部ライフプランニング学科
<p>教育研究上の目的</p> <p>(公表方法：https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/purpose/)</p> <p>(概要)</p> <p>現代に生きる女性とその人生において経験するライフ・イベントに主体的に対処していくために必要な知識と技能を養い、家庭と職場の双方において活躍できるバランス感覚の優れた人材の育成を目的とする。また、日々の暮らしを真の意味で豊かにする食に関する先進的な知識と技能を身につけつつ、食の伝統と文化を理解した上で自らの暮らしに役立て、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/diplomapolicy/)</p> <p>(概要)</p> <p>ライフプランニング学科は、本学の所定の課程を修め、次のような能力を身につけた学生の卒業を認定し、学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら必要な情報を収集し、多角的な視点から分析し、適切に活用することができる。(情報リテラシー) 2. 事実やデータにもとづき、客観的、論理的に思考することができる。(論理的思考力) 3. さまざまな場面において、自らの意見を持ち、責任ある行動をとることができる。(自己管理能力) 4. 状況を的確に把握し、問題を発見し、その解決のために継続的に取り組むことができる。(問題解決力) 5. 他者の意見を聴き、相手への理解をふまえて適切な表現によって自分の意見を伝え、協力して活動できる。(チームワーク) 6. 社会の中で多様な文化を背景に持つ人々と共生する意思を持ち、ライフイベントや社会的課題に主体的・自律的に対処することができる。(主体性・自律性) 7. 学芸学部の幅広い学びにより培われた教養とともに、自らが選択した領域における高度な専門知識・技能を習得したことによる実践的スキルを持ち、自らの言葉で積極的に発信し、社会に貢献できる。(専門的能力) 8. 経済・経営、生活科学、社会学の分野から ビジネス、家計、食、地域社会に関する幅広い知識を身につけ、主体的、自律的にライフ・イベントに対処できる。(主体性・自律性) 9. 家計、食の分野において、さまざまな活動を適切にマネジメントできる専門的知識と実践的スキルを獲得し、それぞれの分野において社会的課題の解決に積極的に取り組むことができ、社会に貢献することができる能力を身につけている。(専門的能力)
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>(公表方法：https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/curriculumpolicy/)</p> <p>(概要)</p> <p>1) 教育内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 4年間をおとした学修の基礎となる学士課程基幹教育科目に関して、初年次教育において、本学のミッションに基づき「樟蔭コア科目」「言語情報科目」「主題別科目」を履修し、論理的思考力・コミュニケーション力・情報収集力等の基本となる学士力を獲得する。 2. 『樟蔭の窓』を初年次に履修し、大阪樟蔭女子大学で学ぶ意味を考え、また将来社会で自律した女性として生きるために必要な考え方を身につける。 3. 学士課程基幹教育科目主題別科目群に関しては、初年次から自らの関心に応じていくつかの主題領域、科目を選択し、問題を発見する力や解決に向けて継続的に取り組む力、他者への理解をふまえて協力して活動できる力を獲得する。また、学修の成果を就業につなげ、実社会に役立てるために、1年次からキャリア系科目を履修することができる。 4. 各学科は、ディプロマポリシーに掲げる専門的知識・技能等を修得させるために、専攻科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に設置するとともに、それらを時間割として効果的に配置する。 5. ライフプランニング学科で学ぶことの意義を理解する学科専攻基礎科目を初年次から 2

年次にかけて必修科目として履修する。

6. 経済・経営、生活科学、社会学の分野から、ビジネス、家計、食、地域社会に関する幅広い学科専攻科目から、自らの興味・関心に応じて計画的、体系的に科目を選択、履修し、主体的、自律的にライフ・イベントに対処するための基礎的知識から、実践的スキルまでを身につける。

7. 学科専攻の必修科目として、初年次においては、家族と地域社会に関する基本的な知識を学ぶ『現代社会論』や『現代女性論』、暮らしの基盤となる家計について学ぶ『ファイナンシャル・プランニング概論』、家政についての基礎となる知識を学ぶ『生活設計論』、食生活や食文化に関する基本的な知識を学ぶ『食生活概論』や『日本の食と文化』をはじめとする学科基礎科目を履修し、ライフ・イベントを考えるための基礎となる家庭をとりまく社会のしくみ・制度等について理解する。さらに、2年次においては、企業経営をとりまく基本的な知識を学ぶ『経済学入門』と『経営学入門』を履修し、専門的な学修のための基盤となる知識を身につける。また、ファイナンシャル・プランニング技能検定3級の取得をめざす。

8. 2年次からは、「ライフデザインコース」と「フードスタディコース」の2つのコースからどちらかを選択する。「ライフデザインコース」は家計に関するライフデザイン科目、「フードスタディコース」は食に関するフードスタディ科目を核としながら、家庭経営、ビジネス、地域社会に関する学科総合科目にもまたがって学科専攻科目を履修し、家計や食の分野において、さまざまな活動を適切にマネジメントできる専門的知識と実践につながるスキルを獲得し、それぞれの分野において専門性の高い見識を養う。

9. 3年次には、「ライフデザインコース」においては『ライフデザイン総合研究』、フードスタディコースにおいては『フードスタディ総合研究』を履修し、学外連携を含んだ多様な学修により、ディプロマポリシーに掲げる、実践的スキル、自らの言葉による発信力や社会に貢献できる力を獲得する。

10. 3年次から4年次においては、コース別の学びに加えて、演習を中心に卒業論文を執筆し、大学での学びを個々の学生の興味関心にそって深め、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけ、大学での学びを完成させる。

2)教育方法

1. 特に、他者と協力して問題解決を図る能力を高めるために、学科専攻科目、学士課程基幹教育科目キャリア系科目等においてアクティブラーニング、PBL、グループワークを教育方法に取り入れ、授業を行う。

2. 学科専攻科目、学士課程基幹教育科目キャリア系科目等において、学外でのフィールドワークやプロジェクト、インターンシップへの参加、体験による教育方法を取り入れるとともに、その実施時期・課題について講義科目等との整合や連携に配慮して計画的に実施する。

3. 講義・演習科目を中心に、ICT機器とWebツールを活用したオンライン形式による授業を行う。

4. Webツールなどを活用し、学修に関する目標・記録・評価など、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理する。

5. ライフプランニング学科では、学科専攻科目なかでも演習科目において、グループワークやディスカッション、目標を設定したワークなどに取り組む。また、家庭や地域社会、ビジネスの現場におけるフィールドワークを重視し、そのプロセスでICT機器を活用し、学修成果の可視化に取り組む。

3)教育評価

1. ディプロマポリシーにある、情報リテラシー・論理的思考力・自己管理力・問題解決力・チームワーク・主体性・自立性などの汎用的能力を可視化することによって、学生が自己の学修成果を評価するとともに、教員からの評価を受け改善を行う。

2. 学科専攻科目に関わる4年間の総合的な学修成果の評価は「卒業論文」によって行う。

3. 主体的、自律的にライフ・イベントに対処でき、さまざまな活動を適切にマネジメントできる専門的知識とスキルを身につけるといふ学科専攻科目に関わる4年間の総合的な学修成果の評価は「卒業論文」によって行い、複数教員によって評価ルーブリックを活用し、実施する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法： https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/admissionpolicy/)
(概要) ライフプランニング学科は、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーに定める教育を受けるための条件として、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求める 1. 高等学校の教育課程を幅広く修得している。 2. 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合(現代文)」、「英語」を通じて、コミュニケーションの基礎となる、聞く・話す・読む・書く力を身につけている。 3. 身近な生活や社会の問題について、知識や情報をもとにして筋道を立てて考え、それについて説明することができる。 4. 学校での学習や課外活動・ボランティア活動等について伝えたい経験があり、それらをもとにさらに深い知識を学び、成長したいという意欲をもっている。 5. 入学前教育として求められる、必要な基礎的な知識を身につけるための学習課題に最後まで取り組むことができる。 6. 家庭、地域社会、ビジネス、食の分野について興味があり、それらに関する知識・スキルを学ぶ意欲をもっており、学んだことを活かして社会に貢献したいという目的をもっている。

学部等名 学芸学部化粧ファッション学科
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/purpose/)
(概要) 服飾・化粧を中心に、よそおいに関する幅広い専門的知識や技能、豊かな感性を養い、ファッション関連産業で活躍し得る人材の育成を目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/diplomapolicy/)
(概要) 化粧ファッション学科は、本学の所定の課程を修め、次のような能力を身につけた学生の卒業を認定し、学位を授与する。 1. 自ら必要な情報を収集し、多角的な視点から分析し、適切に活用することができる。(情報リテラシー) 2. 事実やデータにもとづき、客観的、論理的に思考することができる。(論理的思考力) 3. さまざまな場面において、自らの意見を持ち、責任ある行動をとることができる。(自己管理能力) 4. 状況を的確に把握し、問題を発見し、その解決のために継続的に取り組むことができる。(問題解決力) 5. 他者の意見を聴き、相手への理解をふまえて適切な表現によって自分の意見を伝え、協力して活動できる。(チームワーク) 6. 社会の中で多様な文化を背景に持つ人々と共生する意思を持ち、ライフイベントや社会的課題に主体的・自律的に対処することができる。(主体性・自律性) 7. 学芸学部の幅広い学びにより培われた教養とともに、自らが選択した領域における高度な専門知識・技能を習得したことによる実践的スキルを持ち、自らの言葉で積極的に発信し、社会に貢献できる。(専門的能力) 8. 主体的、自律的に人間生活に資する「よそおいの美」に関して創造できる。(主体性・自律性) 9. ファッション・化粧・美容の分野において、高度な専門知識・技能を活用できる思考力とスキルを持っている。(専門的能力)
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/curriculumpolicy/)

(概要)

1) 教育内容

1. 4年間をとおした学修の基礎となる学士課程基幹教育科目に関して、初年次教育において、本学のミッションに基づき「樟蔭コア科目」「言語情報科目」「主題別科目」を履修し、論理的思考力・コミュニケーション力・情報収集力等の基本となる学士力を獲得する。

2. 『樟蔭の窓』を初年次に履修し、大阪樟蔭女子大学で学ぶ意味を考え、また将来社会で自律した女性として生きるために必要な考え方を身につける。

3. 学士課程基幹教育科目主題別科目群に関しては、初年次から自らの関心に応じていくつかの主題領域、科目を選択し、問題を発見する力や解決に向けて継続的に取り組む力、他者への理解をふまえて協力して活動できる力を獲得する。また、学修の成果を就業につなげ、実社会に役立てるために、1年次からキャリア系科目を履修することができる。

4. 各学科は、ディプロマポリシーに掲げる専門的な知識・技能等を修得させるために、専攻科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に設置するとともに、それらを時間割として効果的に配置する。

5. 学科基礎科目、学科基幹科目、学科総合科目を初年次から4年次にかけて幅広く学び、そのことを通してファッション、化粧、美容の連続性と包括性を知る。

6. ファッション学を基軸とした学びとして、初年次から4年次にかけてファッション学領域専門科目を中心に履修する。「ファッション学コース」では、「服飾の美学と文化」に関する分析力、「ファッション科学」に関する理解力、「ファッションの設計」に関する創造力を醸成する。

7. 化粧学を基軸とした学びとして、初年次から4年次にかけて化粧学領域専門科目を中心に履修する。「化粧学コース」では、「化粧の文化と社会的意義」の考察力、「化粧デザイン」の創造力、「新しい美」の提案力を育成する。

8. 3年次から「ファッション学コース」と「化粧学コース」のいずれかを学びの目標に応じて選択し、主体、自律をもって活躍できる基礎的知識と実践的スキルを身につける。

9. 「美容コース」では、美容師資格取得に必要な知識・技術を習得させ、美容師国家資格の取得を目指す。さらに学科専攻科目を履修し、主体、自律をもって活躍できる基礎的知識と実践的スキルを身につける。

10. 4年次においては、コース別の学びに加えて、演習を中心に卒業研究を行い、大学での学びを個々の学生の興味関心にそって深め、ディプロマポリシーに掲げた能力を身につけ、大学での学びを完成させる。

2) 教育方法

1. 特に、他者と協力して問題解決を図る能力を高めるために、学科専攻科目、学士課程基幹教育科目キャリア系科目等においてアクティブラーニング、PBL、グループワークを教育方法に取り入れ、授業を行う。

2. 学科専攻科目、学士課程基幹教育科目キャリア系科目等において、学外でのフィールドワークやプロジェクト、インターンシップへの参加、体験による教育方法を取り入れるとともに、その実施時期・課題について講義科目等との整合や連携に配慮して計画的に実施する。

3. 講義・演習科目を中心に、ICT機器とWebツールを活用したオンライン形式による授業を行う。

4. Webツールなどを活用し、学修に関する目標・記録・評価など、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理する。

5. 化粧ファッション学科では、ファッション学、化粧学に関わる講義・実験・実習を通し、「化粧ファッション学」に関して思考・創造できる専門知識を獲得させ、「よそおいの美」についての概念・技術や科学的な視座を習得させる。

6. 「美容コース」では、上記に加え美容師として必要な知識・技能を獲得させ国家資格試験対策を支援指導する。

3) 教育評価

1. ディプロマポリシーにある、情報リテラシー・論理的思考力・自己管理力・問題解決力・チームワーク・主体性・自立性などの汎用的能力を可視化することによって、学生が自己の学修成果を評価するとともに、教員からの評価を受け改善を行う。

2. 学科専攻科目に関わる4年間の総合的な学修成果の評価は「卒業論文」によって行う。
 3. 主体的、自律的に人間生活に資する「よそおいの美」に関して創造でき、高度な専門的知識・技能を活用できる思考力とスキルを身につけるといふ学科専攻科目に関わる4年間の総合的な学修成果の評価は、「卒業論文・卒業制作」および「卒業研究発表会」でのプレゼンテーションに基づいて実施する。

入学者の受入れに関する方針
 (公表方法：<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/admissionpolicy/>)

(概要)
 化粧ファッション学科は、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーに定める教育を受けるための条件として、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求める。

1. 高等学校の教育課程を幅広く修得している。
2. 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合(現代文)」、「英語」を通じて、コミュニケーションの基礎となる、聞く・話す・読む・書く力を身につけている。
3. 身近な生活や社会の問題について、知識や情報をもとにして筋道を立てて考え、それについて説明することができる。
4. 学校での学習や課外活動・ボランティア活動等について伝えたい経験があり、それらをもとにさらに深い知識を学び、成長したいという意欲をもっている。
5. 入学前教育として求められる、必要な基礎的な知識を身につけるための学習課題に最後まで取り組むことができる。
6. ファッション・化粧・美容の分野に強い関心を持ち、それらに関する知識・スキルを学ぶ意欲をもっており、学んだことを活かして社会に貢献したいという目的を持っている。

学部等名 児童教育学部児童教育学科

教育研究上の目的
 (公表方法：<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/purpose/>)

(概要)
 子どもを様々な角度から見つめることができ、教育、文化、福祉、保健、心理等に関する専門的知識及び技能を兼ね備えた子どもの専門家として、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針
 (公表方法：<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/diplomapolicy/>)

(概要)
 児童教育学科は、本学の所定の課程を修め、次のような能力を身につけた学生の卒業を認定し、学位を授与する。

1. 自ら必要な情報を収集し、多角的な視点から分析し、適切に活用することができる。(情報リテラシー)
2. 事実やデータにもとづき、客観的、論理的に思考することができる。(論理的思考力)
3. さまざまな場面において、自らの意見を持ち、責任ある行動をとることができる。(自己管理力)
4. 状況を的確に把握し、問題を発見し、その解決のために継続的に取り組むことができる。(問題解決力)
5. 他者の意見を聴き、相手への理解をふまえて適切な表現によって自分の意見を伝え、協力して活動できる。(チームワーク)
6. 子どもについての幅広い専門的知識を身につけ、子どもの専門家として、社会に貢献できる。(専門的能力)
7. 子どもに関わる知識と能力を取得し、教育・福祉の実践現場に対応できる。(教師力)
8. 家庭や地域における子育てについて、子どもとその親、家族に対して広い視野から助言でき、子どもの健全育成を支援できる。(子育て支援)

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/curriculumpolicy/>)

(概要)

児童教育学科は、ディプロマポリシーに掲げる知識・技能等を修得させるために、学士課程基幹教育科目、学科専攻科目等を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に設置する。なお、カリキュラムの体系についてはカリキュラムマップにおいて明示する。

1)教育内容

1.4年間をととした学修の基礎となる学士課程基幹教育科目に関して、初年次教育において、本学のミッションに基づき「樟蔭コア科目」「言語情報科目」「主題別科目」を履修し、論理的思考力・コミュニケーション力・情報収集力等の基本となる学士力を獲得する。

2.『樟蔭の窓』を初年次に履修し、大阪樟蔭女子大学で学ぶ意味を考え、また将来社会で自律した女性として生きるために必要な考え方を身につける。

3.学士課程基幹教育科目主題別科目群に関しては、初年次から自らの関心に応じていくつかの主題領域、科目を選択し、問題を発見する力や解決に向けて継続的に取り組む力、他者への理解をふまえて協力して活動できる力を獲得する。また、学修の成果を就業につなげ、実社会に役立てるために、1年次からキャリア系科目を履修することができる。

4.1年次春期においては、『児童教育学概論』、『保育原理』、『教育原理』など保育・教育を学ぶにあたっての基礎的科目を履修する。秋期からのコース選択に必要な各免許・資格については、『アカデミック・スキルズA』などの必修かつ基礎となる科目を通してガイダンスを行う。

5.1年次秋期からは、「幼児教育保育コース」、「学校教育コース」に分かれる。それぞれの専門性を身につけるためのコース基礎科目を履修する。

6.2年次からは、各コースの専門基礎となる科目や実技系の科目を履修する。保育士資格に関しては実習が始まる。

7.3年次では、各コースでさらに専門的な科目を履修していく。また、ゼミナールに分かれて少人数でディスカッションを重ねながら学びを深めていく。小学校教育実習・中学校教育実習はこの学年で行う。

8.4年次では4年間の集大成としてゼミナールの中でそれぞれのテーマに合わせて卒業論文の作成・卒業制作を行う。幼稚園教育実習はこの学年で行う。

9.各コースで履修する科目は、幼稚園教諭(1種)、小学校教諭(1種)、中学校教諭1種(英語)、保育士の資格・免許に必要な科目でもあり、1年次より実習時期にも配慮して適切に配置している。

2)教育方法

1.自ら考え、チームとして問題解決を図る能力を高めるために、学科専攻科目、学士課程基幹教育科目においてアクティブラーニング、PBL、グループワークを教育方法に取り入れ、授業を行う。

2.保育・教育の基礎的な原理を学ぶ座学を中心とした科目を履修させた上で、それらを基礎として、保育・教育をする上で必要となる実践的な技能について少人数による実習形式で学ばせる。

3.学外での実習をおこなうにあたっては、必要とされる技能が十分であるかの確認も含めた事前指導を十分おこない、事後には振り返りを徹底する。

4.Webツールなどを活用し、学修に関する目標・記録・評価など、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理する。

3)教育評価

1.ディプロマポリシーにある、情報リテラシー・論理的思考力・自己管理力・問題解決力・チームワークなどの汎用的能力を可視化することによって、学生が自己の学修成果を評価するとともに、教員からの評価を受け改善を行う。

2.教職課程科目については、「教職課程履修カルテ」をもちいて、年度ごとの履修状況を記録し、自己評価、教員による評価をおこない4年間の過程を振り返る。

3.自ら考え、保育・教育現場などで生かすことのできる子どもについての幅広い専門知識と多角的で柔軟な考え方を身につけるといふ学科専攻科目に関わる4年間の総合的な学習成果

の評価は、卒業研究を作成する過程で、またその成果物である「卒業論文・卒業制作」によっておこなわれる。さらにゼミナール合同でおこなわれる卒業論文発表会で、学生相互の評価、複数教員による評価がおこなわれる。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/admissionpolicy/>)

(概要)

児童教育学科は、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーに定める教育を受けるための条件として、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求める。

1. 高等学校の教育課程を幅広く修得している。
2. 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合(現代文)」、「英語」を通じて、コミュニケーションの基礎となる、聞く・話す・読む・書く力を身につけている。
3. 子どもの創造力を育てる音楽・造形・身体表現を、体系的に理解し、実践しながら常に学び続けようと考えている。
4. 成長する子どもの心と体を理解し、親子にアドバイスする専門知識と技能を常に学び続けようと考えている。
5. 特別支援を必要とする子どもや、育児不安を抱える保護者をサポートする技能や知識を常に学び続けようと考えている。
6. 教育者として必要な科目の知識・技術を身につけ、探究心を持ち、常に学び続けようと考えている。
7. 学校での学習や課外活動・ボランティア活動等について伝えたい経験があり、それらをもとにさらに深い知識を学び、成長したいという意欲をもっている。
8. 入学前教育として求められる、必要な基礎的な知識を身につけるための学習課題に最後まで取り組むことができる。

学部等名 健康栄養学部健康栄養学科

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/purpose/>)

(概要)

健康をキーワードに、医療を中心とした現場で栄養教育や指導ができる管理栄養士の育成、ならびに、食を中心とした正しい健康情報を広く国民に教育指導できる人材の育成を目的とする。

(管理栄養士専攻)

栄養ケア・マネジメントに関する教育研究を通して、栄養ケア・マネジメントの基礎理論と基本技術の確実な習得のもとに、基本的な栄養管理に関する実践能力を有した管理栄養士の育成を行うことにより、地域社会の保健・医療・福祉サービスの発展と向上に寄与する。

(食物栄養専攻)

食品、調理、栄養などの「食」に関する教育研究を通して、人々の健康な暮らしを支える専門知識と技術の確実な習得のもとに、食に関するさまざまな分野で活躍する人材の育成を行うことにより、地域社会の健康の保持・増進に寄与する。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/diplomapolicy/>)

(概要)

健康栄養学科は、本学の所定の課程を修め、次のような能力を身につけた学生の卒業を認定し、学位を授与する。

1. 自ら必要な情報を収集し、多角的な視点から分析し、適切に活用することができる。(情報リテラシー)
2. 事実やデータにもとづき、客観的、論理的に思考することができる。(論理的思考力)

3. さまざまな場面において、自らの意見を持ち、責任ある行動をとることができる。(自己管理力)
4. 状況を的確に把握し、問題を発見し、その解決のために継続的に取り組むことができる。(問題解決力)
5. 他者の意見を聴き、相手への理解をふまえて適切な表現によって自分の意見を伝え、協力して活動できる。(チームワーク)
6. 自ら考え、他者との協働によって、健康・栄養にかかわる課題を解決に導く行動力が身についている。(創造的行動力・コミュニケーション能力)
(管理栄養士専攻)
7. 教育現場での栄養教育、給食施設での栄養管理や衛生管理に関する基本的技術を身につけている。(栄養士としての専門的能力)
8. 高度な栄養管理・栄養教育を実践する上で必要な思考・判断力を身につけ、基本的な課題に対応することができる。(管理栄養士としての専門的能力)
(食物栄養専攻)
7. 教育現場での栄養教育、給食施設での栄養管理や衛生管理に関する基本的技術を身につけている。(栄養士としての専門的能力)
8. 食品工業・産業分野における基本的な食品開発及び企画力を身につけている。(食の職業人としての専門的能力)

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/curriculumpolicy/>)

(概要)

健康栄養学科は、ディプロマポリシーに掲げる知識・技能等を修得させるために、学士課程基幹教育科目、学科専攻科目等を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に設置する。なお、カリキュラムの体系についてはカリキュラムマップにおいて明示する。

1) 教育内容

1. 4年間をととした学修の基礎となる学士課程基幹教育科目に関して、初年次教育において、本学のミッションに基づき「樟蔭コア科目」「言語情報科目」「主題別科目」を履修し、論理的思考力・コミュニケーション力・情報収集力等の基本となる学士力を獲得する。

2. 『樟蔭の窓』を初年次に履修し、大阪樟蔭女子大学で学ぶ意味を考え、また将来社会で自律した女性として生きるために必要な考え方を身につける。

3. 学士課程基幹教育科目主題別科目群に関しては、初年次から自らの関心に応じていくつかの主題領域、科目を選択し、問題を発見する力や解決に向けて継続的に取り組む力、他者への理解をふまえ協力して活動できる力を獲得する。また、学修の成果を就業につなげ、実社会に役立てるために、1年次からキャリア系科目を履修することができる。

4. すべての学生は、健康栄養学科専攻科目の学修に必要な基礎的知識の修得のために『化学』、『生物』を履修する。また、基本的な学習能力の獲得および管理栄養士・栄養士の役割を理解し、大学での学びへの動機を高めるために『アカデミック・スキルズ A・B (健康)』を履修する。

5. 修得した知識や技術を統合し、課題を的確に捉え、他者との協働によって適切に対応できる行動力を育成するために卒業研究を遂行し卒業論文を執筆する。

(管理栄養士専攻)

6. 管理栄養士に、これから必要とされる知識、技術を広く学術的知見に基づいて修得するため、本学科専門基礎科目として専門基礎分野関連科目(社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病の成り立ち、食べ物と健康)、専門分野関連科目(基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論、臨地実習、総合演習)、卒業論文関連科目を履修する。

7. 管理栄養士に求められる栄養管理・栄養教育に関するスキルを統合的に身につけるために健康栄養研究を履修する。

8. 学校給食管理・食に関する指導を行える者を育成するために、栄養教諭に関する科目を履修する。

9. 4年次において、複数回の到達度試験を受験し、管理栄養士に求められる高度な専門知識

の理解度を客観的な基準に基づく厳格な評価を受け管理栄養士国家試験受験資格取得をめざす。

(食物栄養専攻)

6. 栄養士に、これから必要とされる知識、技術を広く学術的知見に基づいて修得するため、健康栄養学科専門分野関連科目(社会生活と健康、人体の構造と機能、食品と衛生、栄養と健康、栄養の指導、給食の運営)を履修する。

7. 食品分野における商品開発のための企画力や食を中心とした正しい健康情報を広く伝えるための教育力を統合的に身につけるために健康栄養研究(総合演習)を履修する。

8. 学校給食管理・食に関する指導を行える者を育成するために、栄養教諭に関する科目を履修する。

9. 中学校・高等学校教諭(家庭)養成のための科目を履修する。

10. 食品の官能評価・鑑別など《食》に関する高度な専門知識・技術を有し、食べ物や食生活について、流通・販売者と消費者に的確な情報を提供し、またレストランや食堂などで快適な飲食ができるよう食空間をコーディネートし、さらに《食》に関する消費者のクレームを処理できる専門職を育成するために、フードスペシャリストに関する科目を履修する。

2)教育方法

1. 自ら考え、他者との協働によって、健康・栄養にかかわる課題を解決に導く行動力を高めるために、学科専攻科目、学士課程基幹教育科目においてアクティブラーニング、PBL、グループワークを教育方法に取り入れ、授業を行う。

2. 4年間に渡り着実に学力を積み上げていくために、栄養学の基礎となる化学・生物について演習形式の入学前教育をおこなう。また、入学後にも基礎的内容を定着させるために化学・生物の教育を行う。

3. Web ツールなどを活用し、学修に関する目標・記録・評価など、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理する。

(管理栄養士専攻)

4. 学科専攻科目において、講義で学んだ知識を実践的に活用できる技術を修得するために、実験・演習科目を多く取り入れる。また、これから必要となる力を身につけるために、学外の特定給食施設(病院、福祉施設、事業所等)における給食の運営に関する実習、病院、保健所等における栄養管理・栄養教育に関する実習、キャリア実習における食品開発プロジェクト等への参加による教育方法を取り入れるとともに、その実施時期・課題について学内の講義、実験・演習科目等との整合や連携に配慮して計画的に実施する。

5. 管理栄養士として必要な知識・技能についての4年間の総復習を実施する。また、正課の講義以外でも習熟度クラス別の勉強会を行う。

(食物栄養専攻)

4. 学科専攻科目において、講義で学んだ知識を実践的に活用できる技術を修得するために、実験・演習科目を多く取り入れる。また、これから必要となる力を身につけるために、学外の特定給食施設(病院、福祉施設、事業所等)における給食の運営に関する実習、キャリア実習における食品開発プロジェクト等への参加による教育方法を取り入れるとともに、その実施時期・課題について学内の講義、実験・演習科目等との整合や連携に配慮して計画的に実施する。

5. 正課の講義以外にも、フードスペシャリストとして必要な知識・技能についての4年間の総復習の勉強会を行う。

3)教育評価

1. ディプロマポリシーにある、情報リテラシー・論理的思考力・自己管理能力・問題解決力・チームワークなどの汎用的能力を可視化することによって、学生が自己の学修成果を評価するとともに、教員からの評価を受け改善を行う。

2. 自ら考え、他者との協働によって、健康・栄養にかかわる課題を解決に導く行動力を身につけるといふ学科専攻科目に関わる4年間の総合的な学修成果の評価は、卒業論文の執筆・発表によって行い、複数教員によって評価する。

(管理栄養士専攻)

3. 栄養管理・栄養教育を実践する上で必要な思考・判断力を身につけ、基本的な課題に対応

できる管理栄養士としての総合的な学修成果の評価は、健康栄養研究における発表会および複数回の到達度試験によって総合的に評価する。

(食物栄養専攻)

3. 教育現場での栄養教育、給食施設での栄養管理や衛生管理に関する技術を身につけている、および食品工業・産業分野における基本的な食品開発及び企画力を身につけているかの評価は、健康栄養研究における発表会によって総合的に評価する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/idea/admissionpolicy/>)

(概要)

健康栄養学科は、ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーに定める教育を受けるための条件として、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求める。

1. 高等学校の教育課程を幅広く修得している。

2. 高等学校までの履修内容のうち、管理栄養士専攻では、「国語総合(現代文)」、「英語」、「数学Ⅰ・数学A」、特に「化学基礎」、「化学」、「生物基礎」、「生物」を通じて、栄養学を学ぶための基礎的学力、およびコミュニケーションの基礎となる、聞く・話す・読む・書く力を身につけている。食物栄養専攻では、「国語総合(現代文)」、「英語」、「数学Ⅰ・数学A」、「日本史B」、特に「化学基礎」、「化学」、「生物基礎」、「生物」を通じて、栄養学を学ぶための基礎的学力、およびコミュニケーションの基礎となる、聞く・話す・読む・書く力を身につけている。

3. 健康・栄養にかかわる問題について、知識や情報をもとにして筋道を立てて考え、それについて説明することができる。また、自らの意思を持って他者と協働的に課題に対処することの重要性を認識している。

4. 入学前教育として求められる、必要な基礎的な知識を身につけるための学習課題に最後まで取り組むことができる。

(管理栄養士専攻)

5. 将来、栄養管理・栄養教育を実践できる管理栄養士として活躍するために、それらに関する知識・スキルを学ぶ意欲をもっており、学んだことを活かして社会に貢献したいという目的をもっている。

(食物栄養専攻)

5. 教育現場での栄養教育、給食施設での栄養管理や衛生管理、食品関連企業等、健康・栄養に関する職業人として活躍するために、それらに関する知識・スキルを学ぶ意欲をもっており、学んだことを活かして社会に貢献したいという目的をもっている。

6. 学校での学習や課外活動・ボランティア活動等について伝えたい経験があり、それらをもとにさらに深い知識を学び、成長したいという意欲をもっている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/chart/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
学芸学部	—	26人	19人	5人	2人	0人	52人
児童教育学部	—	9人	7人	5人	0人	0人	21人
健康栄養学部	—	6人	7人	3人	0人	0人	16人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員			計	
0人			241人			241人	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://cv01.ufinity.jp/osakashoin/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
<p>本学の FD・SD 活動の概要</p> <p>本学の教育理念の実現に向け、ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）及びスタッフ・ディベロップメント（以下「SD」という。）を積極的に推進する組織として、平成24年5月、「FD・SD 活動推進委員会」を設置した。FD・SD 活動推進委員会は、学長室直轄の組織として、これまで本学の教育開発機構（平成19年～平成24年）が積み重ねてきたFD活動の実績を踏まえて、それらをさらに発展させるための活動を推進している。</p> <p>FD・SD 活動推進委員会では、本学の“教育力”の向上を目指して、以下の取り組みを組織的、かつ効果的に実施している。</p> <p>①授業見学・公開の取り組みの継続 ②新任研修のみならず、全教職員を対象とする研修プログラムを実施 ③「授業改善のためのアンケート」の結果の活用</p> <p>本学の FD・SD 活動の取り組みの例</p> <p>① 授業見学・公開 授業見学・公開は、教員一人一人が授業改善意識をもって、より良い授業を行い、大学として学生の学士力を保証するための組織的取り組みとして行っている。春期と秋期の授業期間はいつでも授業見学を希望することが可能になっている。見学者は見学後にレポートを提出し、授業を公開した教員はそれにフィードバックを行っている。</p> <p>② 授業改善のためのアンケート 授業内容・授業方法の改善を目的として、学生による「授業改善のためのアンケート」を平成20年秋期から実施している。その結果は教員個人の授業改善に活用されている。平成22年度秋期からは全体の集計結果だけでなく、科目ごとの集計結果を教職員および、在学生に公開し、組織的な授業改善につなげる取り組みを進めている。</p> <p>③ 学内研修会 新任教員向けの研修会や、年に2回全教職員対象の研修会を開催している。また不定期にサロンを開催し、教職員同士の意見交換や情報共有をすすめている。</p> <p>④ その他の取り組み</p>							

平成 25 年度より、FD 活動の一貫として「大阪樟蔭女子大学専任教員 FD ポイント制度」を実施している。この制度は、本学専任教員の教育力向上を図るとともに、ひいては本学総体としての教育力向上を図るため、専任教員各人の各種 FD 活動への自主的、積極的な参加を促進することを目的としている。規程に定める基準以上のポイントを獲得した教員は、学長より顕彰される。

また「メーリングリスト」を活用し、学内の研修会等の告知を行ったり、学外の FD フォーラムやワークショップを紹介し、積極的に FD 活動に取り組めるよう、情報提供を行なっている。

上記説明の他、年度毎の活動報告については、本学ホームページ「本学の FD・SD 活動の概要」に掲載している。

<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/research/fd/>

④ 入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
学芸学部	380 人	297 人	78.2%	1,480 人	1,309 人	88.4%	0 人	1 人
児童教育学部	120 人	45 人	37.5%	580 人	254 人	43.8%	0 人	0 人
健康栄養学部	160 人	85 人	53.1%	640 人	402 人	62.8%	0 人	0 人
合計	660 人	427 人	64.7%	2,700 人	1,965 人	72.8%	0 人	1 人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
学芸学部	362 人 (100%)	9 人 (2.5%)	287 人 (79.3%)	66 人 (18.2%)
児童教育学部	120 人 (100%)	0 人 (0%)	113 人 (94.2%)	7 人 (5.8%)
健康栄養学部	111 人 (100%)	4 人 (3.6%)	102 人 (92.0%)	5 人 (4.4%)
合計	593 人 (100%)	13 人 (2.2%)	502 人 (84.7%)	78 人 (13.1%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
学芸学部	449人 (100%)	339人 (75.5%)	40人 (8.9%)	70人 (15.6%)	人 (%)
児童教育学部	127人 (100%)	116人 (91.3%)	3人 (2.4%)	8人 (6.3%)	人 (%)
健康栄養学部	119人 (100%)	106人 (89.1%)	8人 (6.7%)	5人 (4.2%)	人 (%)
合計	695人 (100%)	561人 (80.7%)	51人 (7.3%)	83人 (11.9%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー）に基づき学部・学科ごとの教育課程を定めている。教育課程については学則、学則別表、カリキュラムマップによってこれを整理し、カリキュラムポリシーとともに大学ホームページに掲載し公表している。

教育課程ごとの授業科目については、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画（シラバス）を作成し、シラバス作成ガイドラインとともに大学ホームページに掲載して公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

学修の成果に係る評価については、評価の方法、単位認定の方法、成績の評価基準等を履修規程に規定し、それを大学ホームページに掲載し公表している。

卒業の認定に関する方針については「ディプロマ・ポリシー」として、学部・学科毎に策定し本学ホームページに掲出し公表している。また、その内容について、毎年度見直しを行なっている。

また、成績評価において、成績評価基準を明確にした上で、客観的な指標（GPA）を設定し、履修単位の登録上限を設定するなど、学生の学修成果の評価並びに単位認定の水準確保に配慮した適切な運用を行っている。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
学芸学部	国文学科	124 単位	○・無	学期ごとに 24 単位
	国際英語学科	124 単位	○・無	学期ごとに 24 単位
	心理学科	124 単位	○・無	学期ごとに 24 単位
	ライフプランニング学科	124 単位	○・無	学期ごとに 24 単位
	化粧ファッション学科	124 単位	○・無	学期ごとに 24 単位
児童教育学部	児童教育学科	124 単位	○・無	学期ごとに 24 単位
健康栄養学部	健康栄養学科	124 単位	○・無	学期ごとに 24 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/campus/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
学芸学部	国文学科	830,000 円	280,000 円	400,000 円	施設設備費 (年額) 280,000 円 休学中の学籍管理料 (年額) 120,000 円
	国際英語学科	830,000 円	280,000 円	400,000 円	施設設備費 (年額) 280,000 円 休学中の学籍管理料 (年額) 120,000 円
	心理学科	870,000 円	280,000 円	400,000 円	施設設備費 (年額) 280,000 円 休学中の学籍管理料 (年額) 120,000 円
	ライフプランニング 学科	890,000 円	280,000 円	400,000 円	施設設備費 (年額) 280,000 円 休学中の学籍管理料 (年額) 120,000 円
	化粧ファッション 学科	890,000 円	280,000 円	400,000 円	施設設備費 (年額) 280,000 円 休学中の学籍管理料 (年額) 120,000 円
児童教育 学部	児童教育学科	870,000 円	280,000 円	400,000 円	施設設備費 (年額) 280,000 円 休学中の学籍管理料 (年額) 120,000 円
健康栄養 学部	健康栄養学科 管理栄養士専攻	995,000 円	280,000 円	425,000 円	施設設備費 (年額) 280,000 円 休学中の学籍管理料 (年額) 120,000 円 実験実習費 (年額) 25,000 円
	健康栄養学科 食物栄養専攻	890,000 円	280,000 円	410,000 円	施設設備費 (年額) 280,000 円 休学中の学籍管理料 (年額) 120,000 円 実験実習費 (年額) 10,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

本学で学ぶ学生が4年間で着実に成長できるように、独自の教育プログラムを整えている。初年次教育では、4年間の学びの基礎力を身に付けた上で、専門教育で専門性を高めていく。加えて、学んだことを社会で実践するプログラムを用意し、学びと実践の繰り返しにより、幅広く、深い知識を習得し、思考力や応用力を培う。さらに、教室外での学修をサポートするしくみや環境を整えて、ひとりひとりの「学び」と「成長」を応援している。初年次のカリキュラムとして、学士課程基幹教育は、「読む」「聞く」「書く」「話す」を

基本にして、大学での学びの土台作りと社会人としての基礎力の習得を目標とし、専門教育は、各学科の専門教育の導入・基礎となる科目による学びをスタートさせている。免許・資格課程では、諸資格課程の共通科目や学科専攻科目の履修により、資格・免許の取得や国家試験受験資格が得られる課程を用意し、将来の志望に合わせて履修計画を立てている。

教室外での学修を支えるしくみとしては、アドバイザー制度、オフィスアワー制度、ライティングヘルプデスク（文章表現の基本「書く」ことに特化したサポート）等を行っている。この他、免許・資格課程で学んだ成果を、採用試験や国家試験の合格という形で実現するために、オリジナルの各種対策講座を開講している。また、学外資格試験の対策講座を、外部資格学校の協力を得て学内で開講している（教員採用試験・国家試験等合格のための対策講座、学外資格試験対策講座）。

入学者に対し、入学金及び前期分授業料等の徴収を入学後の5月の徴収としている。また、日本学生支援機構の給付型奨学金の採用候補者である入学者については入学後、授業料減免後の学費徴収としている。入学後の5月に授業料等の支払いができるので奨学金振込後の支払いが可能となっている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

本学では、進路支援に係る支援として、自らのキャリア形成に向けて能動的・自主的かつ肯定的に取り組むことを目的とした「キャリアサポートプログラム」を初年次から設定し、社会で必要な力をむりなく段階的に身に付けていく。2年生からはインターンシップを正課授業として履修することが出来、インターンシップには、「就業体験型」、「学生提案型」の2種類のプログラムを提供している。本学の就職支援として、3年生の春期から具体的に社会人になること、採用選考を意識した就職ガイダンスを軸に、業界セミナー、ビジネスマナー講座、実践模擬面接講座等、様々な就職支援プログラムを実施している。特徴のある支援として、職員一人ひとりが担当学科を受け持ち、卒業するまで責任を持ってサポートする「学科担当制」や就職活動中、採用試験などで遠くの地域へ行く場合、大学が交通費（学割）の半額を補助する「遠距離交通費補助」等がある。また、上記記載の就職支援プログラムは、コロナ禍で拡大したオンラインのメリットを活かし、実施方法をオンラインと対面を使い分けて実施している。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

本学では、教員、事務局が一体となり、疾病や障がいなどによって学修に困難を抱える学生一人一人のニーズを理解し、支援する体制づくりを行っている。

◆アドバイザー制度

学生一人一人の学生生活の充実を目的として、履修指導を含む修学、大学生活全般にわたる問題を発見し、相談窓口の機能を果たすアドバイザー制度を設けている。アドバイザーは、担当する学生の相談に応じ、指導および助言にあたり、問題の早期発見・早期介入に努めている。

◆保健室

保健室では、体調不良やケガの応急処置はもちろん、全学生を対象に実施している定期健康診断、禁煙教育、感染症予防などの業務を行っている。看護師3名が日々の相談に応じるほか、内科校医による健康相談日も設けており、健康上の不安や心身の不調についても相談することができる。

◆学生相談室

心身ともに健やかで充実した学生生活を送ることができるよう、常時3名の公認心理師有資格の専門カウンセラーが様々な悩みや相談に個別で応じており、対面だけではなく電話等での相談も行っている。

また、保護者からの相談にも対応しているほか、精神科医による相談日を月1回設けている。また、2024年度より、心身の不調等が理由で休学した学生が、復学後、卒業を目指すための支援を充実させることや、再び不適応を起こさずに済むような個々のニーズに合

わせた支援を行うことを目的とした「復学者支援」を発足することになった。

◆障がい学生支援

「高い知性」と「豊かな情操」を兼ね備えた社会で貢献できる女性の育成を目的とする建学の精神に則り、障がいを理由とする差別の解消に取り組み、障がいの有無に関わらず平等に教育・研究に参加・活動できるよう機会の確保に努めることを基本理念とする「障がい学生支援に関する基本方針」を定めている。週3日、学生支援課に精神保健福祉士有資格の専門のコーディネーター1名を配置し、障がい学生の支援を行っている。

◆学生支援関連部署連絡会議

月1回、学生部長を議長とした学生支援関連部署連絡会議を開催し、本学の特別な配慮を必要とする学生の支援に関する事項について審議、関連部署と連携を図っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.osaka-shoin.ac.jp/univ/about/disclosure/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

総合知を育成するための学生の学びの充実に向けた取り組み

◆文理横断による総合知創出
a) 大学入学者選抜において、出題科目の見直し 一般選抜入試における「一般入試C」にて、「学力型」「総合型」いずれかを選択でき、「総合型」では、文理横断型の総合問題を出题している。この総合問題は、知識を問うものではなく、課題テーマに対する読解力、論理的思考力、表現力が身につけているかを多面的・総合的に評価し、合否を決定するものである。
b) 大学入学者選抜において、入試タイプの見直し（探究型入試の導入） 生徒が主体的に課題を発見し、多様な人々と協働しながら課題を解決する「総合的な探究の時間」が重視されていく中、総合型選抜入試において、高等学校で取り扱った内容をそのまま入試で活用できる「探究学習評価型入試」を導入している。評価方法としてはパワーポイント等を用いながらプレゼンテーションを行い、課題設定力、問題解決力、表現力を評価する。高校での探究学習で培った総合的な学びを大学での学びに接続。
c) 新学科（リベラルアーツ学科）の設置__リベラルアーツ教育の強化 ※令和7年度開設設置認可申請中
リベラルアーツ学科の養成する人材像を 1. 人間の心理やコミュニケーションに関する高度な知識を持った人 2. 社会・文化の多様性を尊重し実証的・科学的に探究する能力を持った人 3. 人間理解に立脚した社会貢献を果たす意欲と行動力を身につけた人 として、 基礎科目群の学びの上に、コミュニケーション科目群、人間・地域理解科目群、データスキル科目群を配置し、これら科目の学びから得られた成果を具現化し、現代社会が抱える様々な課題を多面的・多角的に分析、考察するとともに、自ら課題を発見し、その解決に取り組むために必要な能力を身につけるため、年間を通じてPBL科目群で学んでいく。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F127310108018
学校名 (〇〇大学 等)	大阪樟蔭女子大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人樟蔭学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		347人	313人	352人
内訳	第Ⅰ区分	213人	208人	
	第Ⅱ区分	78人	63人	
	第Ⅲ区分	56人	42人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				355人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	-	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	-	人	人
「警告」の区分に連続して該当	-	人	人
計	-	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	-	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	17人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	17人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。